

智^チ識^{シキ}ヲ廣ムルハ
新聞ヲ求ムルニ在リ

山梨と新聞

 山梨県立博物館
Yamanashi Prefectural Museum

休館日 ▶ 毎週火曜日
開館時間 ▶ 9:00～17:00(入館は16:30まで)
観覧料 ▶ 一般500(400)円、大学生250(200)円
常設展+企画展共通券 ▶ 一般820円、大学生370円

2022. 10.15 SAT - 12.5 MON

※高校生以下の方、県内在住の65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料。

※()内は20名以上の団体、県内のホテルや旅館に当日か前日に宿泊する方を対象とした割引料金です。※無料、割引の対象となる方は、それぞれ証明できるものをご提示ください。※購入日から何度でも観覧できる年間パスポート(一般2,100円、大学生1,050円)もございます。※ご来場時はマスク着用など、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策にご協力ください。また、状況によっては中止、もしくは人数制限を行うことがあります。

- 主催/山梨県立博物館、山梨日日新聞社・山梨放送、山梨文化会館
- 後援/朝日新聞甲府総局、NHK甲府放送局、エフエム甲府、エフエム富士、産経新聞甲府支局、テレビ朝日甲府支局、テレビ山梨、日本ネットワークサービス、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、山梨中央銀行、読売新聞甲府支局
- 協力/日本通運株式会社、山梨交通株式会社

幕末から明治にかけての激動の時代、人々は日々刻々と変わる政治や社会に関する知識を求め、各地でその媒体としての新聞が次々に発行されるようになりました。山梨で明治5年(1872)7月に発行された「こうちゅうしんぶん 峡中新聞」(現 山梨日日新聞)は、その後の150年間、名前を変えながらも山梨の人々に様々な情報を提供し続け、現在に至るまで継続発行されている最古の地方紙として知られています。

新聞の果たす役割は、政治や社会の情報をもたらすだけではありませんでした。経済、文化、スポーツなど、地域の人々の暮らしに関わるあらゆる情報を伝え、その発展や創造に大きく貢献してきたのです。

「峡中新聞」創刊から150周年となる今年、山梨という地域からみえるメディアの歩みを通して、「県民の歴史」をご紹介します。

関連イベント

要事前申込

事前申込は当館ホームページで応募方法・必要事項をご確認のうえ、ご応募ください。申込多数の場合は抽選となります。

▶ 講演会 I

11月 3日(木祝)「山梨の新聞の歴史」
向山文人氏(山梨日日新聞 新聞150年史事業統括、元山梨日日新聞社論説委員長)

▶ 講演会 II

11月27日(日)「野口二郎と山梨の郷土史研究」
清雲俊元氏(山梨郷土研究会理事長)

時間/13:30~15:00 会場/生涯学習室
※各回定員30名。聴講無料。
※往復ハガキ申込あり(締切 講演会I:10月18日(火)・II:11月15日(火))

▶ 記者が語る新聞取材秘話

11月12日(土) 時間/13:30~15:00
会場/生涯学習室 ※定員30名。聴講無料。
山梨県民の記憶に残るニュースの取材をした記者が、取材現場のようす、読者の反響、裏話などをお話します。

▶ 取材体験 あなたも新聞記者!

12月 3日(土) 時間/13:30~15:00
会場/生涯学習室 ※定員6名。参加無料。
展示会のようすを取材し、原稿を書いて、写真を添えてオリジナルの新聞記事を作ってみませんか?
新聞社の現役記者が、取材や写真撮影のポイントをお教えします!

▶ 思い出新聞発行

10月23日(日) 時間/10:00~16:00(12:00~13:00は休憩)
会場/メインエントランス ※参加無料。先着100名。
新聞に掲載されたできごとなどをキーワードで検索し、過去の新聞からあなたの読みたい日の紙面を印刷してプレゼントします。

▶ 来館記念新聞をつくろう!

11月20日(日・県民の日)
時間/10:00~16:00(12:00~13:00は休憩)
会場/メインエントランス ※参加無料。随時受付。
あなたの写真を、新聞の紙面に印刷してプレゼントします。

▶ 担当学芸員による展示会の見どころ解説

10月30日(日)、
11月 6日(日)、13日(日)、
12月 4日(日) 時間/いずれも14:00~1時間程度
会場/生涯学習室 ※定員30名。参加無料(当日13:00から整理券を配布)。
担当学芸員が、展示会の見どころをご紹介します。

※イベントは変更・中止になる場合があります。

智^チ識^{シキ}ヲ廣^ワムルハ新聞ヲ求^{モト}ムルニ在^在リ

山梨を新聞

山梨県立博物館 Yamanashi Prefectural Museum

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1
電話 055-261-2631 FAX 055-261-2632
U R L : <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>
E-mail : kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp



山梨県立博物館 公式 Twitter [kaiseum_ypm](https://twitter.com/kaiseum_ypm)

ご来場時はマスクの着用など、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策にご協力ください。また、状況によっては中止、もしくは入場制限を行うことがあります。

アクセス

- 中央自動車道一宮・御坂ICから車で約8分
笛吹八代スマートICから車で約12分
- JR石和温泉駅南口からバスで約10分
【富士急バス/「富士山駅」行き、「鷲宿」行き】
- JR甲府駅からバスで約30分
【富士急バス/南口5番のりば「富士山駅」行き】
【富士急バス/北口2番のりば「富士山駅」行き】
- 富士急行・河口湖駅からバスで約40分【5番線「甲府駅」行き】
- 富士急行・富士山駅からバスで約50分【4番線「甲府駅」行き】



2022

9

月

28

日

水

11

月

23

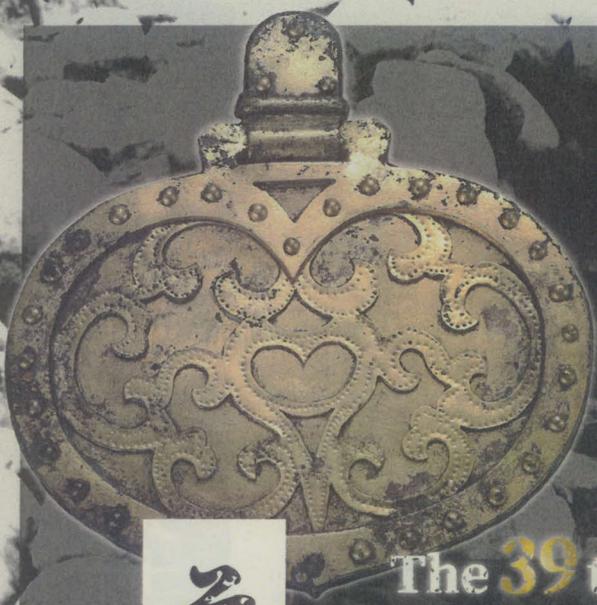
日

水

祝

休館日

毎週月曜日（10月10日は振替）



The 39th Special Exhibition

その原像を探る

勇者の甲斐

KAI NO TAKEKI-HITO



左上から時計回り
【国宝】金銅心葉形香蓋・【国宝】金銅歩搖 綿貫観音山古墳 文化庁蔵（群馬県立歴史博物館保管）
【重要文化財】三角板革紐漆付短甲・革製櫛角付骨 野内古墳・大阪大学蔵
西文帯環状乳神歌鏡 丸山塚古墳 東京大学総合研究博物館蔵
勾玉 甲斐鏡子塚古墳 東京国立博物館蔵 ※背景：かんかん塚（茶塚）古墳内部

山梨県立考古博物館

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL. 055-266-3881



甲斐の勇者

たけきひと

とは

何者なのか？

吹負謂甲斐勇者
追以射於是甲斐

甲

斐の勇者は、奈良時代に成立した歴史書「日本書紀」にわずかに言の記述で登場する謎の人物で、672年に勃発した天智天皇の皇位継承をめぐる古代日本最大の内乱である「壬申の乱」において、大海人皇子（後の天武天皇）方の騎兵として甲斐国から動員されたといわれています。その実像は定かではありませんが、6・7世紀の甲斐盆地に築かれた古墳群には、武器や武具、馬具といった勇壮なる騎馬兵の姿を彷彿とさせる副葬品が納められており、そうした人物像が生まれた背景を考古学的な視点からも垣間見ることが出来ます。

一方、甲斐盆地では既に4世紀代から馬の存在が知られており、最新の研究成果では山梨県産の水晶の勾玉や石材などが東北から東海地方にかけて広く流通していたことが明らかになっています。さらに、これまで渡来系とされていた鉄製品や、倭王権からの配布とされていた石製品などが甲斐盆地内で生産された可能性が指摘されるなど、「甲斐の勇者」という人物像が生まれた背景を探るにあたり、山梨の古墳時代を前期まで遡って見ていく必要性があることが分かってきました。

今回の展示では、山梨と各地の古墳出土品を比較しながら「甲斐の勇者」の原像を探るとともに、古墳時代を通じての被葬者像とその歴史的背景について考えていきます。

第39回 特別展

『甲斐の勇者—その原像を探る—』

開催期間

令和4年9月28日（水）～11月23日（水・祝）

開館時間

9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日

毎週月曜日（10月10日は開館）

観覧料

一般・大学生600円（20名以上の団体480円）
小・中・高校生・県内在住の65歳以上の方 無料
障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名 無料

記念講演会

10月9日（日）第1回『甲斐の先進性』

講師：小林 健二 氏【山梨県埋蔵文化財センター】

10月30日（日）第2回『武器の生産と流通』

講師：藤村 翔 氏【富士市教育委員会】

11月13日（日）第3回『古墳の被葬者像』

講師：若狭 徹 氏【明治大学文学部】



ご予約はコチラ

受講 無料

本講演会はMicrosoft Teamsを使ったオンライン配信がメインです。9月9日（金）よりホームページにて申し込みを受け付けます。また、開催日限定で当館エントランスホールでのオンライン配信視聴も可能です（少人数）。こちらは電話【055-266-3881】または来館にてお申込みください。



山梨県立考古博物館

@yamanashi_kouko @yamanashi.kouko1103

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

①【重要文化財】厩庭付冢 野中古墳 大阪大学蔵

②【展示は写真のみ】武人植輪（原品は国宝）群馬県太田市飯塚町 東京国立博物館蔵

③歴史書に登場する「甲斐勇者」「日本書紀」巻26・27・28（部分）富士河口湖町教育委員会蔵

⚠ 内容は変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。



①
<後援>
朝日新聞甲府総局 / エフエム甲府 / エフエム富士 /
産経新聞甲府支局 / テレビ朝日甲府支局 /
テレビ山梨 / 日本ネットワークサービス /
毎日新聞甲府支局 / 山梨新報社
山梨日日新聞社・山梨放送 / 読売新聞甲府支局 /
曾根丘陵公園指定管理者
富士観光開発・富士グリーンテックグループ
<協力> 山梨県立考古博物館協会の



- 自動車：中央自動車道甲府南ICを下り1分（IC正面）
- 電車：甲府駅南口から中道橋経由で豊富行バス「県立考古博物館」下車
- タクシー：甲府駅から約20分・東花輪駅より約15分